

骨粗鬆症⑥ 骨粗鬆症による骨折

大腿骨転子部骨折

大腿骨転子部骨折（股関節の骨折）は骨粗鬆症の方が転倒することによって発生します。老年人口の増加で発生数は増加しており、2010年には約17万人の方が股関節を骨折すると予測されています。また発生数だけでなく女性では発生率も増加しているといわれています。

治療は早期離床を目指して、入院後なるべく早い時期に脊椎麻酔または全身麻酔下に手術を行います。当院では右下の写真のような手術器具を用いて骨折の手術を行っています。手術後は翌日からどんどん座位を行い、手術後3日目から歩行訓練を行うのが当院での標準的なリハビリです。

当院では平成17年には33例の大腿骨転子部骨折の手術を行っていますが、80歳代が13例、90歳代が13例とかなり高齢の方の手術が増加しています。

骨折を予防するためにはまず転倒しないようにすることが重要で、下肢の筋力訓練、バランス訓練、住宅環境の整備などが対策としてあげられます。また骨粗鬆症に対する薬物療法を行うことも、骨折の予防につながる事が証明されています。

骨粗鬆症に関連する骨折が生じた場合、それがどの部位であっても大腿骨近位部骨折の危険性が2倍に増加するといわれていますので注意が必要です。



(受傷時)



(手術後)

骨密度の測定を希望される方や、骨粗鬆症に関して質問のある方は整形外科医師に気軽にご相談ください。

(文責 古川)